

# P・I・A シート

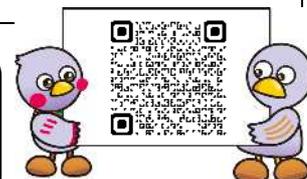
～「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善 実践事例～  
中学校 保健体育 編 ① 概要

校種・学年	中学校・2学年	教科等	保健体育
単元名	「球技」（バスケットボール）		
単元の目標	<p>(1) バスケットボールでは、基本的なボール操作、仲間と連携した空間に走り込む動きの仕組みやポイントを理解し、動けるようにすることでゴール前での攻防を試合で実践できるようにする。 &lt;知識及び技能&gt;</p> <p>(2) 自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 &lt;思考力、判断力、表現力等&gt;</p> <p>(3) 球技に積極的に取り組み、自分の役割を果たそうとするとともに、仲間の学習を援助しようとする、一人一人の違いに応じたプレイを認めようとする、話し合いに参加しようとする、健康・安全に気を配ることができるようにする。 &lt;学びに向かう力、人間性等&gt;</p>		
本時のねらい	一人一人の違いに応じた課題や挑戦及び修正等を認めることができるようにする。 <学びに向かう力、人間性等>		
本時の評価規準	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人一人の違いに応じた課題や挑戦及び修正等を認めている。</li> </ul> （観察）【主体的に学習に取り組む態度】		

## 事例の概要(見どころ)

- 男女共習の授業。体力や技能の程度、性別等の違いを認め合い、相手や仲間を尊重し、仲間の学習を援助するよう取りまわせることで、「誰もが楽しめるバスケットボール」の実現を目指した授業を展開しています。
- 自己や仲間、チームの課題について、思考したことを互いに伝え合うチームミーティング等の「学び合い」の活動を多く取り入れています。課題の合理的な解決を目指して、効果的な「対話的な学び」「協働的な学び」が単元を通して実践されています。

発行：令和7年3月  
埼玉県教育局南部教育事務所  
<https://www.pref.saitama.lg.jp/g2201/gakkou/pia.html>



# P・I・A シート

～「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善 実践事例～  
 中学校 保健体育 編 ② 指導展開

○ねらい 一人一人の違いに応じた課題や挑戦及び修正等を認めることができるようにする。

〈学びに向かう力、人間性等〉

○準備 バスケットボール48個、ビブス6色×6枚、デジタルタイマー1台、得点板2台、カゴ6個

○展開 (6/9時間)

	学習内容・活動	指導上の留意点 (○指導 ◆評価規準)
導入 10分	<p>【授業改善の視点】本単元を通して、埼玉県を目指す体育授業「めあてをもって進んで運動仲間と学ぶ 喜びあふれる体育・保健体育授業」を実践し、運動好きな生徒を育てていきます。</p> <p>1 集合、整列、健康観察、挨拶をする。</p> <p>2 準備運動、感覚づくりの運動を行う。</p> <p>【授業改善の視点】種目特性に応じた準備運動と主運動に繋がる基礎的・基本的な感覚づくり運動を、必要感をもたせて実施することが重要です。</p> <p>(1) 準備運動・フットワーク バスケットボールの特性(全身持久力・スピード・巧緻性・敏捷性)に応じた体操を各チームで行う。</p> <p>(2) ボールを使った感覚づくりの運動 ドリブル・シュート・2対1を個人またはチームごとに選択する。</p>	<p>○健康観察を通して、健康状態を把握する。</p> <p>○素早く集合・整列ができるように声かけをし、気持ちよく学習が始められるようにする。</p> <p>○一つ一つの動きを確認しながら元気よく、大きな動きで正確に行うよう声をかける。</p> <p>準備運動と感覚づくりの運動</p>  <p>準備運動と感覚づくりの運動に必要な感をもたせるために、チームそれぞれで運動を選択させています。</p> <p>○個人で選択した場所に素早く移動するよう声をかける。</p> <p>○チームで選択した種目に素早く切り替えるよう声をかける。</p> <p>○技能のポイントを意識できるような声かけをする。</p>
	<p>3 本時のねらいと学習内容を確認する。</p> <p><b>試合の中で、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めよう。</b></p> <p>【授業改善の視点】生徒が本時の課題解決に“必要感”をもち、自分事として取り組めるようにねらいを示します。単元全体での位置付けや前時からのつながりを意識させることも必要です。</p> <p>4 個人・チームの課題を振り返る。</p>	<p>○本時のねらいと学習内容を確認する。</p>  <p>本時のねらいと学習内容を確認</p> <p>○個人・チームで課題を設定するよう指示する。</p>

- 5 ゲーム①を行う。  
・オールコートでの4対4（2面）

**ゲームの行い方**

◎コート⇒2面  
◎時間⇒4分  
\*必ず1人1回は出場すること  
◎人数⇒各クォーター4人出場  
(男子2人、女子2人)

**特別ルール①**

<ディフェンス>  
★マークマンを決めて守る。  
⇒1人が1人を守る!

<オフェンス>  
★得点&シュート制限

	ゴール下	レイアップ	ミドル
女子			
男子			
バスケ部			

※授業を行いながら生徒が設定する。

【授業改善の視点】一人一人の生徒が、本時のねらいを達成することができるように、教師が指導や助言、称賛をします。

- 6 グループでの話し合い活動を行う。
- ・試合の中の仲間の課題や挑戦を認める。
  - ・次の試合に向けてチームの取組を決める。



次のゲームに向けたグループでの話し合い

- 設定した課題を共有する。
- 対戦チーム相手、活動場所を確認する。
- 用具・支える係を中心にボールと得点板を準備する。
- 審判の号令後、各コート挨拶、握手をし、始める。



男女共習によるオールコートでの4対4のゲーム



一人一人の違いに応じたプレイ等を認めやすくするために、参加者全員が楽しんだり達成感を味わったりすることのできる工夫や雰囲気づくりを講じています。

- チームや個人で考えた課題を意識できているチームを称賛する。
- 違いに応じたプレイを見つけて認めている人を称賛する。
- さまざまな角度から違いに応じた仲間のプレイや挑戦を認め合う力を養う。
- チームをさらに良くするためのアドバイスを行わせ、次の試合に向けての意識を高める。
- 一人一人の違いに合わせた助言ができるように支援する。
- ゲーム①の勝敗を踏まえて、対戦チームの入れ替えを行う。
- チーム内での声かけを大切にし、積極的に称賛するよう声をかける。

【授業改善の視点】自己や仲間の課題に応じて思考し判断したこと等を、言葉で表したり、仲間に理由を添えて伝えたりする機会を確保することが重要です。



努力を要すると判断される生徒に対し、教師が本時のねらいに迫る発問をするなどして、「わかる」「できる」を保障しています。

◆一人一人の違いに応じた課題や挑戦及び修正等を認めている。

(観察)【主体的に学習に取り組む態度】

◎十分満足できると判断される状況(A)の生徒の具体的な姿

- ・仲間の挑戦や修正を積極的に認めたり、励ましたりし、さらにレベルアップするために助言を一人一人の特性に合わせてしている。
- ・ゲームの中で積極的に一人一人の違いに応じて声かけをしている。

△努力を要すると判断される状況(C)の生徒への指導の手立て

- ・自分の挑戦や修正を周りに伝えるよう支援する。
- ・特定の人の中間の挑戦や修正する姿と一緒に発見をする。

7 ゲーム②を行う。

- ・オールコートの4対4(2面)



○グループでの話合

いで決めた取組を  
実践できているチ  
ームを称賛する。



【授業改善の視点】体力や技能の程度及び性別の違い等にかかわらず、仲間とともに学ぶ経験は、生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現に向けた重要な学習機会であることから、原則として男女共習で学習を行うことが求められています。

8 整理運動を行う。

9 集合、健康観察をする。

10 学習の振り返りとまとめをする。

○ゆっくり大きく整理運動を行い、筋肉をほぐすよう声をかける。

○けがや体調不良者の確認をする。

○本時のねらいの達成状況を振り返り、全体で発表する。

○ねらいを達成している生徒を称賛する。

【授業改善の視点】本時のねらいに正対した学習の振り返りをし、本時で何を学んだのかを教師と生徒で整理します。その際、生徒が振り返った内容と関連付け、本時の学習活動の価値を実感できるようにし、次時の意欲喚起につなげるようにします。

11 次時の予告をする。

12 挨拶、片付けをする。

○次時の学習内容を確認させることで、次時の学習意欲向上へと結び付ける。

○元気よく挨拶を行うよう声かけを行う。

整理  
10  
分